書籍紹介



著者 清 眞人

書名 高橋和巳論 宗教と文学の格闘的契り

出版社 藤原書店

出版年 2020 年 4 月 10 日

概要 高橋和巳を、「共苦 vs 怨恨的復讐」をキーワードとし「宗教と文学との格闘的契り」という視点から論ずる。第 I 部「『悲の器』としての人間」は、高橋文学の基底に置かれた彼の実存体験に根差す人間観とそこから生まれる小説構築方法論の特質をテーマとする。第 II 部「救済と革命」は、二つの革命、すなわち己の実存の在りようの革命(救済)と社会革命、その可能性をめぐって 20 世紀が経験した悲劇、これを彼が如何に作品化したかを探る。第 III 部「女たちの星座」は、彼の作品において女性登場人物たちが如何なる問題の担い手として登場しどのような星座的配置をとるかを分析する。



著者 井ノ口淳三

書名 コメニウスの生涯と謎を追う – 通説の疑問を歩いて考える

出版社 文理閣

出版年 2020 年 3 月 1 日

概要 17世紀チェコの教育者で、哲学者、宗教者でもあるコメニウス (1592 1670) は、貧富、身分、性、居住地、民族等の差異に関わらず、すべての人に学ぶ機会を設けることを提案した。30 年戦争に翻弄されながらも信念を貫いた彼の生涯には、実は幾つもの謎や不明な点がある。本書は、コメニウスが滞在したチェコ、スロヴァキア、ドイツ、ポーランド、イギリス、スウェーデン、ハンガリー、オランダなどのゆかりの地を探訪した多くのカラー写真を添えて、通説の疑問について考えた著作である。



著者は、鉄鋼マンとして製鉄所21年、大学教員として大学 28年にわたり、「働きつつ学び研究する」という「働・学・研」 協同の生き方を買いてきた、本書には、その歩みと理論・思 想・クケハウが示されている。

仕事や生き方を研究対象として青・壮・老を生き抜くロマン と挑戦とは何かを明らかにする。多忙なビジネスバーソンにこ そ、ぜひ一読を薦めたい本である。

北尾吉孝(SBIホールディングス代表取締役社長、SBI大学院大学学

社会評論社

著者 十名直喜

書名 人生のロマンと挑戦 – 「働・学・研」協同の理念と生き方

出版社 社会評論社

出版年 2020年2月10日

概要 本書は、半世紀にわたる仕事・研究・人生に光をあて、「働・学・研」協同の視点からまとめたものである。プロローグ:人生とロマンの探求序章:仕事・研究・人生の意味と「協同」のダイナミズム第1部:働き学ぶロマン―製鉄所と基礎研で育まれた仕事・研究の夢とスタイル第2部:「働・学・研」協同の理念と半世紀の挑戦―仕事・研究・人生への創造的アプローチ終章:青・壮・老を生き抜く「働・学・研」協同―生きがい創造と熟年への視座エピローグ:「自己」の探求と邂逅第1部と第2部は、それぞれ製鉄所と大学を主な舞台にした実践編、序章と終章はその思想・理論編にあたり、プロローグとエピローグは人生論で締める。



著者 古沢広祐

書名 食・農・環境と SDGs 持続可能な社会のトータルビジョン

出版社 農山漁村文化協会 (農文協)

出版年 2020 年 2 月 28 日

概要 食・農・環境を軸に世界の将来展望。3部構成で、持続可能な社会へのビジョン、システムの変革の道標を示す。人類活動は深刻な地球環境問題と、格差や社会的軋轢を生みながら、グローバルな社会経済システムを形成してきた。国際分業と大競争が地域性と自然の循環を切断して大地との離反を促すのに対し、地球環境問題の深刻化を阻止するエコロジー運動、地域コミュニティ・地域循環(調和)型社会を形成する動きが展開している。ローカルからグローバルまで、様々な調整・拮抗的なバランス力の創出からパラダイム変革を展望する。

古沢広祐

地球市民として生きる知恵 うすための12条/カルに 著者 古沢広祐

書名 エシカルに暮らすための 12 条 地球市民として生きる 知恵

出版者 週刊金曜日、Kindle 版

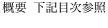
出版年 2019 年 7 月 29 日

概要 グローバル社会の問題点を分かり易く紹介。目次:① グリーンからエシカルへ、②ファッションだってエシ カルに、③鰻を食べて大丈夫かな? ④有機=エシカ ル? オーガニック認証、⑤森のエコラベル、⑥動物 福祉—アニマルウェルフェア、⑦町ぐるみでエシカル めざすフェアトレードタウン、⑧過熱するペットビジ ネス輸入ペットの動向、⑨日本にもある現代の奴隷制 度、⑩つくる責任・つかう責任、⑪銀行・投融資を変 えるエシカルなお金って? ⑫『バナナと日本人』の その後、補論:日本でのエシカルの広がり。

『総合人間学第 14号』のご案内

書名 いのちのゆれの現場から 実践知を問う

出版者 本の泉社 出版年 2020 年 6 月





共通善の政治学 ――民主政治の再建、福祉・環境政策のために 総合知と「自分 重い障害のある人の発達保障実践から 対話/熟議の場を生成するファシリテーション いのちのゆれとの対話から発見する豊かさ 「いのちの電話」活動における実践知・総合知の形成 臨床宗教師」誕生が意味するもの `ゆれ。 "ゆらぎ』と対話について考える (私)」――当事者性の視座から「知のあり方」を問う 種村完司 徳田太郎 大菅俊幸 藤井博之 110 87

総合人間学 14)いのちのゆれの現場から実践知を問う î